

音順	方劑名	生薬構成 および製法・服用方法
は一7	<p>傷寒論・金匱要略条文</p> <p>読み および解説・その他</p> <p>麦門冬湯</p>	<p>麦門冬 (甘平) 20g・半夏 (辛平) 10g・人参 (甘微寒) 2g・甘草 (甘平) 2g・粳米 (甘平) 4.2g 大棗 (甘平) 4g</p> <p>上の6味を水480mlを以て半分に煮詰め、滓を去り1回に40ml宛温服すべし。</p>
<p>肺痿肺癰咳嗽上気病脈証併治第七第10条 (金匱要略)</p>		
<p>「大逆上気し咽喉利せず、逆を止め気を下す者、麦門冬湯之を主とどる。」</p>		
<p>解説 咳が込み上げてくるとひどくなり、顔も赤く上気して、咽の通りが悪くなる様な者には、逆を止めて、上気した気を下げる麦門冬湯が主治する。</p>		
<p>麦門冬湯は、肺が乾いて咳をする時に用いる。肺の津液不足からくる熱を伴っており、この熱のために、咽喉がいがらっぽくなったり、痰の粘性が高まったり、痰が切れにくくなったりする。咳き込んでのぼせても、顔が赤くなるとは限らない。</p>		
<p>麦門冬湯の麦門冬は、上焦(肺、心)の陰気を補い、命門の陽気が逆上するのを緩和し、咽喉のいがらっぽさを利す。半夏は、肺の濁水を下し、人参・甘草が、心、胃の陽気を助け、粳米・大棗が、気の逆上を緩和する。</p>		
<p>加減方</p>		
<p>食欲が無い場合は 麦門冬湯 + 小柴胡湯とするとよい。</p>		
<p>虚勞症状がある場合は 麦門冬湯 + 炙甘草湯とするとよい。</p>		
<p>「方劑決定のコツ」の解説</p>		
<p>発作的に咳が込み上げて、顔が赤くなり、咽喉不利で、咽喉の通りが悪く(咽は食道、喉は気管を指す)息が苦しく、込み上げるのを止め、上気を引き下げるものは、麦門冬湯が主治するということである。また大逆上気して咽喉不利するのは、胃気が上衝せず不和を生ずるので、麦門冬湯によって胃気を和して気を下すのであろうと思われる。</p>		
<p>麦門冬湯証</p>		
<p>新古方薬囊によれば「咳が出て、甚だ込み上げ止まざる者、咽喉痛む者、咽喉の通りが悪くイライラとして咳が出始める者、また病後等にて他に別に原因なくして熱出で癒えざる者。但し此の場合食欲無き者は柴胡などの之く所多し。又咽喉がイライラとして、咳出で止まらざる者に半夏厚朴湯の証あり、但半夏厚朴湯の証の場合には、咽喉のイライラが絶えず付きまとう者多し。」と記されている。</p>		